

インドネシア大統領、カリマンタン島への 首都移転を正式に提案



8/16(金) 14:21 配信

【ジャカルタ 16日 ロイター】 - インドネシアの大統領は16日、ジャワ島にある首都ジャカルタをカリマンタン島に移転することを正式に提案した。独立74周年記念を翌日に控え、議会での所信表明演説で述べた。首都があるジャワ島の人口が急増し、過密状態となっていることから、ジョコ大統領はジャワ島以外に首都を移転することを決めていた。大統領は「首都は国のアイデンティティーのシンボルであるだけでなく、国の発展を示すものだ。経済の平等と公正を実現することが目的だ」と述べた。ただ、具体的な移転先は明らかにしていない。

ジャカルタ、インドネシア、7月29日 (AP) — インドネシアのジョコ・ウィドド大統領は4月29日、首都をジャカルタからジャワ島の外に移転する方針を決定した。海面上昇と地盤沈下による首都水没の危機が遷都の最大の理由といわれている。専門家は、海面上昇と地盤沈下が現在のスピードで進行すれば、2050年までにはジャカルタの3分の1が水没すると警鐘を鳴らしている。

ジャカルタ湾に面した北ジャカルタ区の湿地帯は、1年間に10センチの割合で沈下しており、地球温暖化による海面上昇が問題をさらに複雑にさせている。ジャワ海沿いムアラバルのスラム街には、大洪水の後巨大な防潮壁が建設されたが、築十数年たった今、コンクリートにはひびや割れ目が目立ち始めている。壁の外側にあったモスクは床部分まで海面が上昇しており、海辺の民家は住民が避難したまま廃墟と化している。

何十年にもわたる無秩序かつ無計画な都市開発に加えて、公共の利益をそっちのけにして私利私欲に走った為政者たちによる失政のツケが、現在首都ジャカルタが直面している危機だ。

ウィドド大統領が「早急に着手する必要がある」という防潮壁建設プロジェクトの第1段階は、総延長30キロメートルにおよぶ既存の防潮壁の補強工事。第2段階として17の人口島の造成、そして最終段階として、ジャカルタ湾の東西に巨大な防潮堤を建設しようというものだ。